

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) Number 2

※動画で用いるスライドはPDFで動画下にリンクで貼り付けています

人の発達と成長を区別する
—教育の目的は生徒の「学びと成長」にあり—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年准教授、2014年教授を経て、2019年4月より現在に至る。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください



※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです

デザイン等を少しずつ修正していきます

- 「溝上慎一の教育論」動画チャンネル
- 冒頭のテロップだけでも

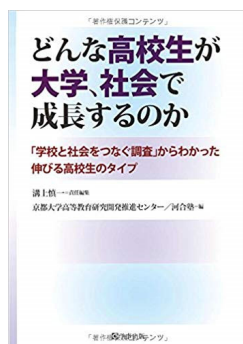


学校法人河合塾と共催

10年トランジション調査

- 2013年時 約45,000人の高2生が参加
- 2018年時（大学4年生） 2,742名

（男性996名、女性1,731名）が継続的に調査参加



溝上慎一（責任編集）京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾（編）(2015). **どんな高校生が大学、社会で成長するのかー「学校と社会をつなぐ調査」からわかった伸びる高校生のタイプー** 学事出版



溝上慎一監修 京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾（編）（2018年2月）
『高大接続の本質ー「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題』 学事出版

2019.12.05

「学校と社会をつなぐ調査」第4回調査分析結果報告会レポート：高校2年生から大学4年生まで 生徒はどう変わったか？

3/14(日)2020年度対話のひろば 第5回「タイトル未定ー学びを止めるな！」

ASAGAOメーリングリスト
tulipメーリングリスト
専大FDメーリングリスト

フォーラム【会員限定】

2020年度対話のひろば
2019年度対話のひろば
未来のマナビフェス2019
学校づくりリーダー塾
2018年度対話のひろば
未来のマナビフェス2018
フォーラム一覧

アクセスランキング

2020年度対話のひろば第4回 実施レポート公開！
「教員が学ぶ学校づくり」

2019.12.05

「学校と社会をつなぐ調査」第4回調査分析結果報告会レポート：高校2年生から大学4年生まで 生徒はどう変わったか？

「学校と社会をつなぐ調査」は、2013年に京都大学高等教職研究開発推進センターと学校法人河合塾が共催で開催した、高校生を対象に10年間継続する調査です。この調査は、調査の企画・分析者の溝上慎一先生が前身学室へ異動したことで、2018年9月より溝上先生と河合塾との共同で継続して実施しています。調査協力者は全国378校の高校2年生45,311名にまでのぼり、昨年（2018年）に実施した大学4年生時点の調査には、2,742名の大学生が継続して協力してくれました。溝上先生の言葉を借りるなら、「過去もふり返って回答させるふり返り調査はこれまでもありましたが、これほどの大規模な調査で、高校生と大学生の姿も断片的に取れた調査研究は冒険に等しく、昨今の高大接続、学校から仕事・社会へのトランジション（移行）の改革のなかで貴重な資料になるはず」です。

※この記事は、会員専用コンテンツです。下記の「続きを読む」よりログインしていただくか、**会員登録（無料）**をして下さい。

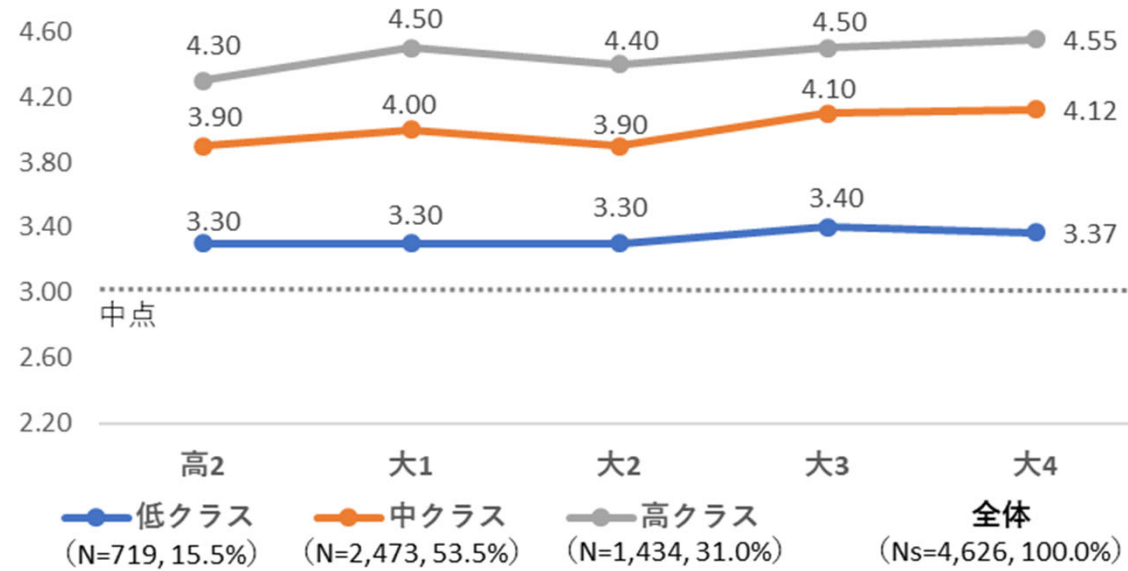
[続きを読む](#)

コメントを投稿するには**ログイン**してください。

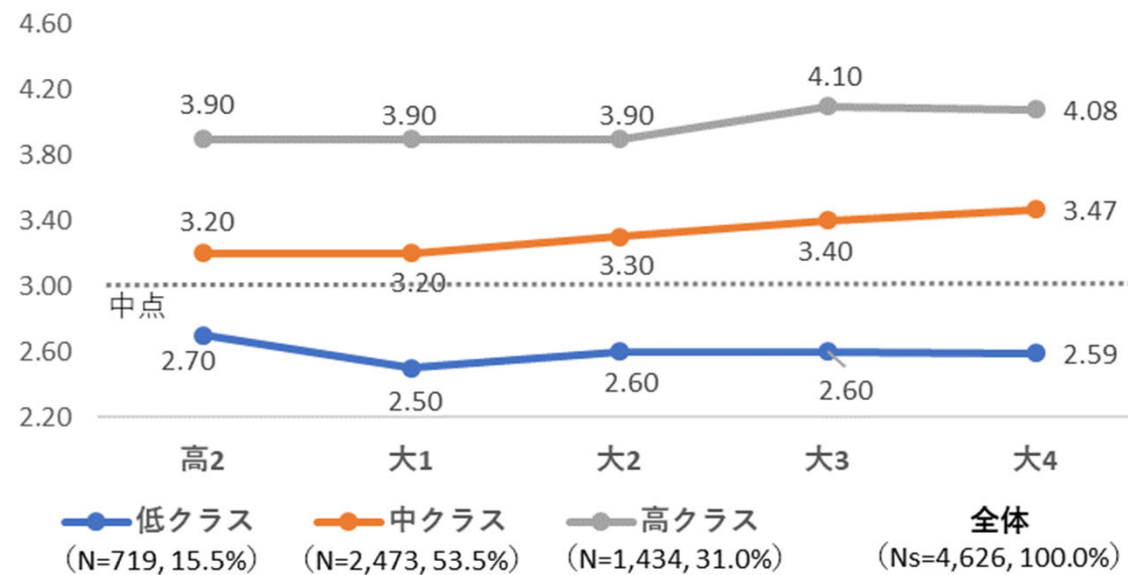
高校2年生から大学4年生まで生徒はどう変わったか？ー『10年トランジション調査』中間報告（『Be a Learnerー未来のマナビを考えるー』サイト 要会員登録）

<https://be-a-learner.com/5296/>

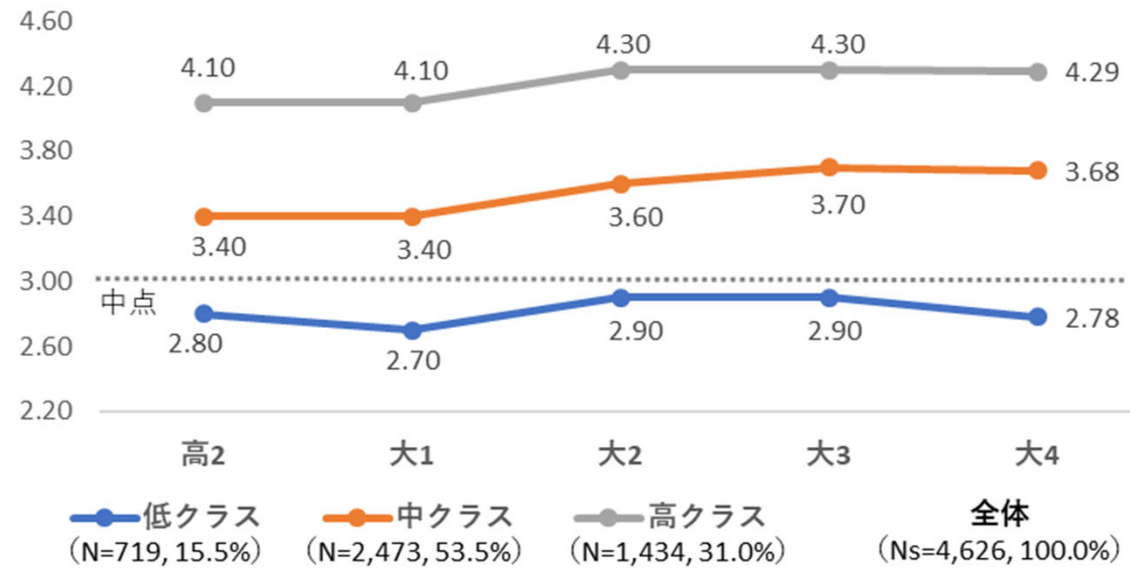
他者理解力



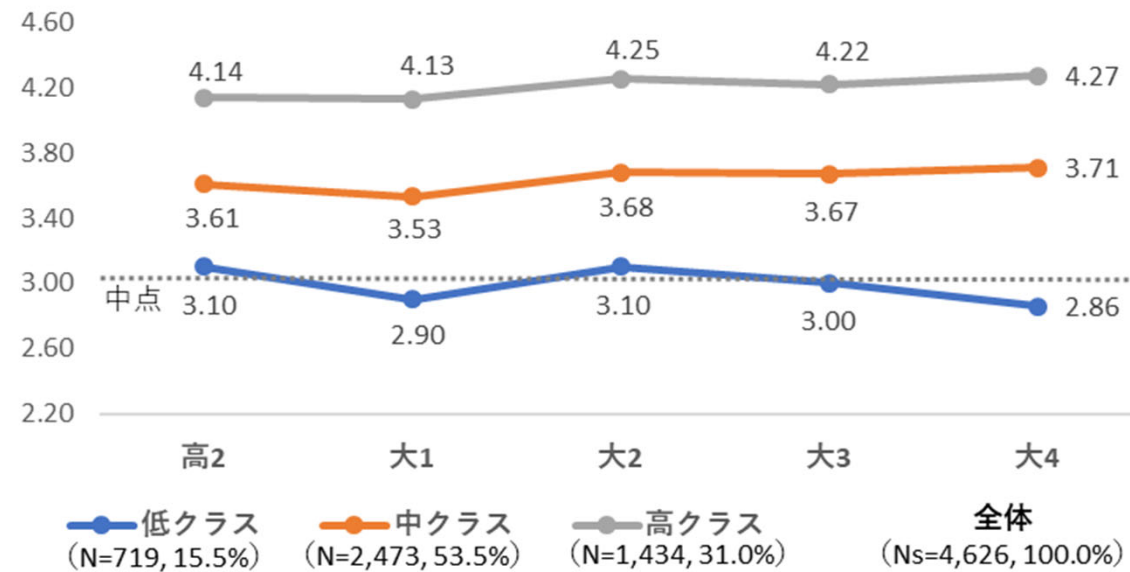
計画実行力



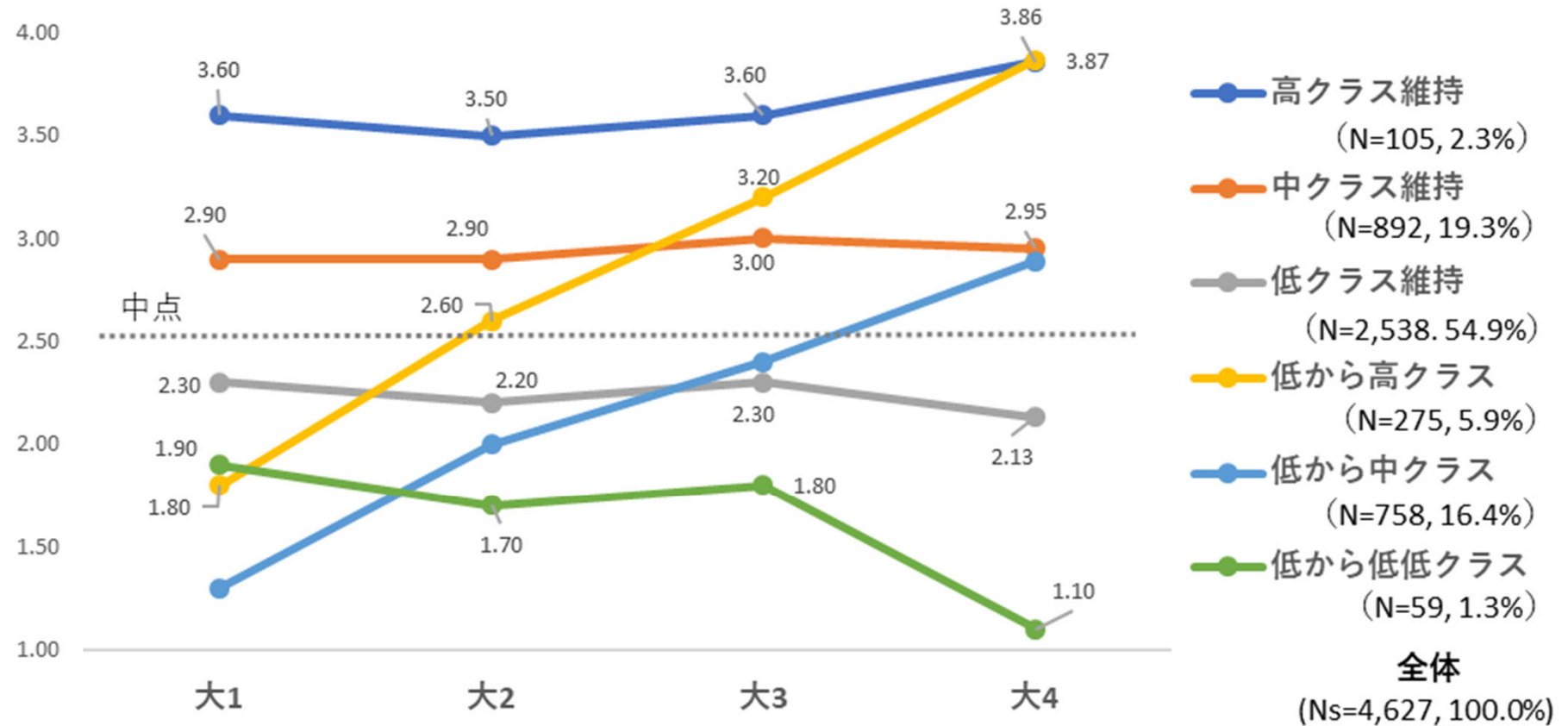
コミュニケーション・
リーダーシップ力



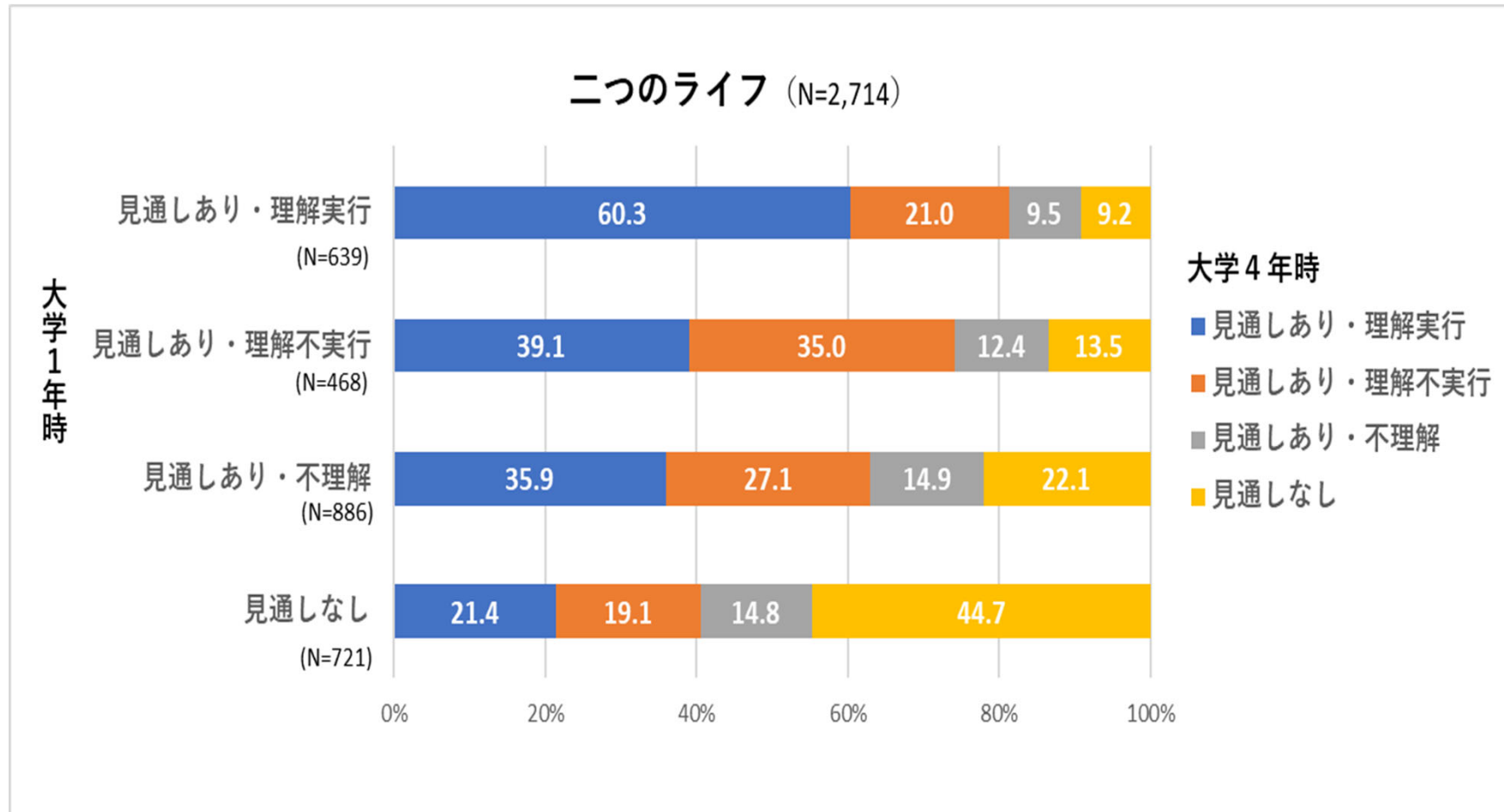
社会文化探究心



アクティブラーニング（外化）する態度や能力の変化



二つのライフ（将来の見通し+理解実行）（キャリア意識）



(補完調査) 全国大学生3・4年生調査

「発達」と「成長」を見分けることが重要!

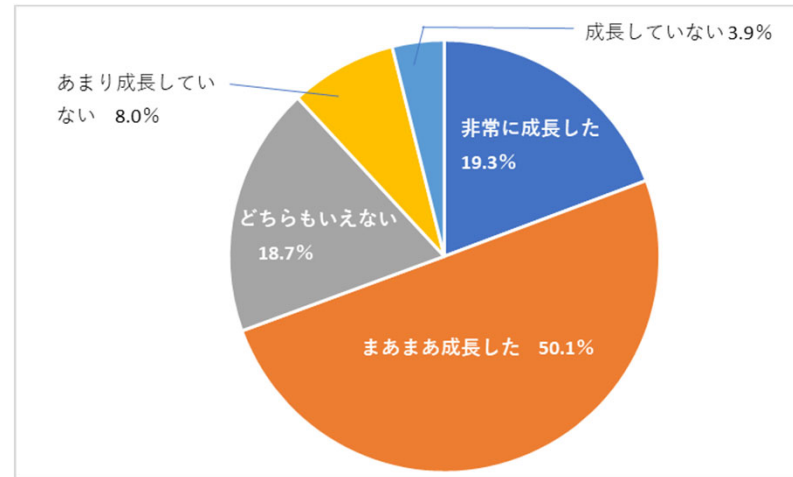
①発達 (psychological development)
 幼少期からの積み上げ的心理的発達

②成長 (subjective development)

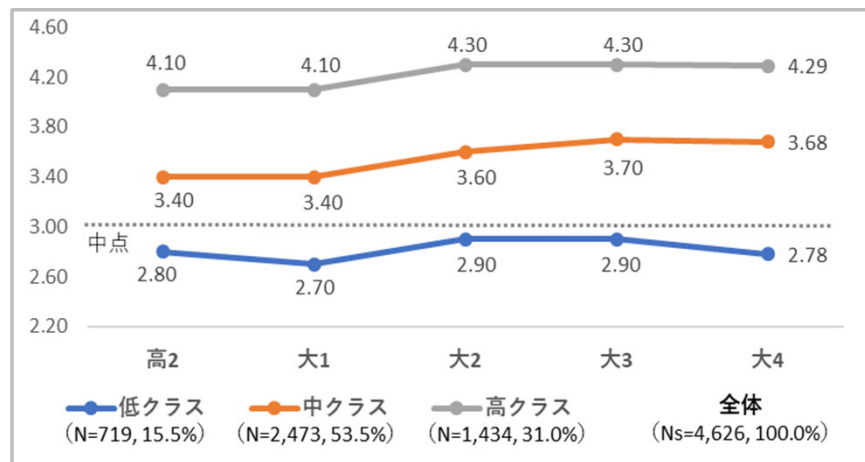
- 生じること
- 単純から複雑へ進歩すること
- あるテーマをつくりあげること
- 開くこと
- より発展した状態へと移行すること (→①)

(Valsiner et al., 2003)

Q「あなたは大学生になって以降、全体的にどの程度成長したと感じますか。」



(N=2,062人)



→ 統計的に、個人間の変化は認められないが、個人内変化は認められる

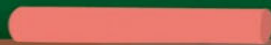
「人の発達と成長を区別する
—教育の目的は生徒の「学びと成長」にあり—」
ご視聴有難うございました

質問、コメントは個人メールで受け付けます。
E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等



学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年京都大学准教授、2014年教授を経て、2018年9月に学校法人桐蔭学園へ。2019年同理事長、2020年より現職。京都大学博士（教育学）

日本青年心理学会理事、大学教育学会理事、“*Journal of Adolescence*” Editorial Board委員、文部科学省高等教育局スキームD（座長）、中央教育審議会初等中等教育局臨時委員、総合教育政策局リカレント教育審査委員、大学・高校の外部評価・指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

専門は、青年・発達心理学・教育実践研究（自己・アイデンティティ形成、自己の分権化、学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジション、人生100年時代のキャリア形成など）。著書に『自己形成の心理学—他者の森を駆け抜けて自己になる』（2008世界思想社、単著）、『現代青年期の心理学—適応から自己形成の時代へ』（2010有斐閣選書、単著）、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（2014東信堂、単著）、『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』（2018東信堂、単著）、『学習とパーソナリティ—「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね！」をどう見るか—』（2018東信堂、単著）、『高大接続の本質—「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題—』（2018学事出版、編著）など多数。

<http://smizok.net/>



著作紹介

溝上慎一 (2020). 『社会に生きる個性—自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシー—』
(学びと成長の講話シリーズ3) 東信堂

第1章 自己と他者の観点から見る学びと成長

1. 人の発達において他者理解は自己理解に先立つ
3. 自己とは——他者との対峙を通して発現する一個存在
6. 講義—辺倒の授業における学習においてさえ他者は組み込まれている
7. 学習プロセスに他者を組み込む——ペア・グループワークはなぜ求められるのか
9. リフレクション（振り返り）はメタ認知を働かせた言語活動
10. 自己内対話と学習

第3章 エージェンシー

1. OECDの学習者のエージェンシー
3. バンデュラのエージェンシー論—四つの特徴
5. 自己肯定感を高めるのではなく、自己効力感（エージェンシー）を高めよ
6. 内発的動機づけ・自己決定理論——主体的な学習の第I～II層
7. 記憶の情報処理から見た学習—自己関連づけ・自己生成

第4章 教育雑考

2. 自分が生徒の時にはアクティブラーニングをしてこなかった。なぜ今の生徒にここまで求めるのか
3. 社会に生きる個性を育てる——教授パラダイムと学習パラダイムに関連づけて
4. 生徒はアクティブラーニングを熱心におこなうが、教師は成果としての手応えを感じない。そこで起こっていることは？
5. アクティブラーニングと評価



最近の著作紹介

溝上慎一 (2021). 高校生の学びと成長に向けた「大学選び」
—偏差値もうまく利用する— 東信堂

第1部 自身の「大学選び」の質を高める5つのポイント

第1章 Point 1 将来の見通しを持つ

第2章 Point 2 「大学で何を学びたいか」からではなく、「将来どのような職業に就きたいか」から「学部選び」を行う

第3章 Point 3 大学がアクティブラーニング型授業を積極的に推進しているかを調べる

第4章 Point 4 偏差値をうまく利用する

第5章 Point 5 三大都市圏以外の大学を選択肢に含める

第6章 (おまけ) 中小企業はおもしろい!

——ここから職業、「大学選び」を考えてみる

第2部 高校生からの質問に答える

